

令和元年6月4日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2014～2018

課題番号：26704008

研究課題名(和文) 中世初期東インドにおける武力と武装集団：その性格と農村権力関係との関わり

研究課題名(英文) Armed Power and Armed Groups in Early Medieval Eastern India: their Characters and Involvement with Rural Power Relations

研究代表者

古井 龍介 (Furui, Ryosuke)

東京大学・東洋文化研究所・准教授

研究者番号：60511483

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、碑文および文献史料の読解を通して、5世紀から13世紀のベンガルにおける従属支配者層の性格と、彼らと王権との権力関係の推移、すなわち、その登場、軍事奉仕を中心とする王権との関係と領域支配に基づく権力の確立、宗教施設の建立とそれらへの施与を巡る王権との緊張関係と交渉、それを含めた諸矛盾の帰結としてのカイヴァルタ反乱とその後の王権の従属支配者層への強度の依存から、それを脱却しての王権による支配の確立、という歴史的過程を解明した。また、現地調査を通して近世東北インドの国家形成過程との比較可能性を模索し、新出碑文の校訂および既発表碑文の再校訂も行い、一次史料の拡充に貢献した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、中世初期ベンガルにおける権力関係の歴史的変化に一貫性を持った解釈枠組を与えるものであり、同時代南アジア他地域における同様の過程、さらには前近代アジア諸地域における重層的政治権力の在り方についても、応用可能性あるいは比較の対象を提供するものである。また、本研究で遂行された新出・既出碑文の校訂・再校訂は、インド学など、歴史学に限らない、南アジア前近代を扱う様々な学術分野に信頼に足る情報源をもたらし、その発展に貢献するものである。

研究成果の概要(英文)：This study clarifies the character of subordinate rulers and the change in power relation between them and the kingship in Bengal between the fifth and thirteenth centuries, namely, the historical process of their emergence, the establishment of their power based on the relation with the kingship focused on military service and the territorial control, the tension and negotiation between the subordinate rulers and the kingship over the construction of religious institutions and donations to them, the Kaivarta rebellion as a result of several contradictions, and the change from the heavy dependence on subordinate rulers to the established royal control in the aftermath of the rebellion. It also explores the possibility of a comparative study with the process of state formation in the early modern Northeast India and contributes to the expansion of primary sources through the edition of new inscriptions and re-edition of published ones.

研究分野：南アジア中世初期史

キーワード：東洋史 南アジア 中世初期 農村社会 従属支配者層 武力

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

国家による在地支配および暴力の独占が貫徹していなかった前近代、特に分権的な政治構造を特徴とする中世においては、様々な社会集団が武力／暴力を保持し、日常・非日常の紛争解決の手段として行使していた。このような武力と在地支配の態様との関係を研究する上で、中世初期南アジアで焦点となったのは、王権に軍事奉仕と貢納を行う従属支配者層であった。西インドでは戦士・領主層であるラージプートの台頭が顕著であり、その氏族組織の形成とそれに基づく領域支配・軍事動員の態様が盛んに論じられてきた。これに対し、中世初期東インドでは、政治権力の地域内外の戦争への従事にもかかわらず、相当する戦士階層の台頭が見られないなど、武装集団の存在の弱さが顕著であった。研究代表者は碑文をはじめとする史料の読解を通して、(1)農民層の水平的社会結合から土地保有有力者層の台頭への農村社会の変化、(2)王権・従属支配者間の農村社会支配を巡る緊張に満ちた権力関係、(3)商人組合を始めとする商工業者らの組織化、そして(4)宮廷および農村社会で文化的権威を確立しつつあったブラーフマナによる、諸社会集団のジャーティ（カースト）秩序としての再編成の試み、を焦点に中世初期ベンガル農村社会の変動を研究してきたが、それらとの武力／暴力および武装集団の関わりを対象に加えた上での考察の必要が実感された。一方、現代ベンガルには西ベンガルのアグリのようにクシャトリア・アイデンティティーを主張する支配的土地保有カーストが存在し、また近世についても辺境部の農業開発に伴う狩猟採集部族首長の戦士層・領主層への成長や、ラージプートの軍事エートスの登場が論じられているが、そこには近世に軍事エートスを持つ領主層・土地保有層が登場し、近代のカースト・アイデンティティー強化の中でクシャトリア／ラージプート・モデルを採用していった過程が想定される。それらの現象、さらには近世・近代に農村支配層として現れるザミンダール層の起源を理解するには、明確な階層を形成しないまでも中世初期農村社会に存在したであろう武装集団と、それら諸集団との連続あるいは断絶を明らかにすることが必要である。以上を背景として、本研究が着想・開始された。

2. 研究の目的

本研究、ベンガル、アッサムおよびビハールの諸地域における武力およびそれを担った武装集団の在り方と、農村社会における諸社会集団間の権力関係に対するそれらの関わりを明らかにすることを目的とする。具体的には、当該地域に関わる碑文および文献史料から、武力／暴力の描写とそれを行使する武装集団の記述を抽出・分析し、東インドにおける武力と武装集団の特徴と、農村における土地をはじめとする資源の支配とそれらとの関係を解明する。その際、同時代の北インド諸地域の碑文史料および中世初期北インド全般に関わる文献史料の読解を通して他地域における諸要素の性格を理解し、それらとの比較により東インドにおける武力および武装集団の特徴を浮き彫りにする。さらに、このような比較研究を通して明らかにされた東インドの特徴および他地域との差異の原因を追求するが、近年の環境史および非農耕民史研究の成果も踏まえて、西インドの乾燥地における遊牧集団の定住化・領主化によるラージプート形成の過程と、東インドの湿潤地における農業拡大に伴う有力土地保有者層の領主化と他地域起源の傭兵および森林狩猟・採集民の武装集団としての包含・組織化の過程の対比を、差異を環境的・歴史的原因から説明する作業仮説とし、その検証を行う。これらによって明らかにされた中世初期東インドにおける武力および武装集団の在り方を近世・近代の展開と対置することで、後世への連続と断絶を考察し、さらには近世の軍事技術革新によるそれらと在地支配の態様の変化についても展望する。

3. 研究の方法

本研究では東インド諸地域、すなわちベンガル、アッサム、ビハールに関わる碑文およびラーナやカーヴィヤなどの文献史料から、武力／暴力の描写、特に王権と従属支配者層による武力行使の叙述、彼らに軍事力を提供したチャータ・パタなどの名で呼ばれる傭兵・下位武装集団についての記述を抽出・分析し、それらを同時代他地域の碑文および文学史料の記述と比較・対照することで中世初期北インド全体の文脈に位置付け直して東インドにおける武力と武装集団の在り方の特徴を捉え、それらと農村権力関係との関わりを明らかにする。研究に当たっては北インド各地での現地調査により未公表碑文および既発表碑文の撮影とそれらの校訂・再校訂を進めるとともに、インド、バングラデシュおよび欧州各機関での研究発表によってフィードバックを得ることに努める。

4. 研究成果

本研究の主な成果としては、以下の3点が挙げられる。

(1) 中世初期ベンガルにおける従属支配者層の性格と王権との権力関係の解明

既出・新出の碑文およびサンディヤーカラナンディンのラーマチャリタを始めとする文献史料の読解を通して、中世初期ベンガルにおける従属支配者層の性格と、彼らと王権との権力関係の推移を解明した。5世紀第二四半世紀から6世紀半ばに至るグプタ朝によるベンガル支配においては、下位地域ごとに在地の権力構造に対応した「変化のある適応」が見られたが、土地保有農民層および都市有力者層の組織・権威に依存して州支配を行った北ベンガル下位地域プンドラヴァルダナに対し、東インド下位地域サマタタにおいては、グプタ朝の宗主権を認め

る従属支配者による自律的な支配が行われた。5世紀にはその存在が確認される従属支配者たちは、6世紀以降半独立へと向かうが、その下では彼らにさらに従属する支配者たちが成長し、上位支配者と交渉を行うようになっていった。グプタ朝滅亡後の6世紀後半に中央・南ベンガルのヴァンガ、西ベンガルのラーダおよびプンドラヴァルダナに登場した独立の下位地域王権の下で国家権力の存在が強まる中、従属支配者層はその一部として台頭し、識字層と合同して農村社会でのドミナンスを強めていた土地保有有力者層と対峙しつつ、次第にそれらを圧倒していった。東ベンガルでは7世紀にサマタタおよびその北に位置するシュリーハッタの辺境への農耕拡大が進む中で、半独立の従属支配者たちが名目的に上位君主の宗主権を認めつつ実質的な在地支配を進めていたが、自身に従属する下位支配者達との交渉を余儀なくされていた。一方、東インドでも農業開発が進んだサマタタ西部およびヴァンガにおいては、開発による資源基盤の安定により支配を強化した独立王権の下で、従属支配者を階層化された土地関係に上位地権保有者として包摂していく傾向が認められた。

8世紀以降、北・西ベンガルを支配したパーラ朝、東ベンガルを支配したチャンドラ朝がそれぞれ地域王権として成立すると、国家による農村社会の支配が強化された。その中で支配の一翼を担った従属支配者層の活動は、パーラ朝初期、9世紀に顕著であった。彼らは商人・識字エリート・土地保有有力者・部族首長・他の王朝の分派など様々な社会層を出自としながら、軍事奉仕を中心とするパーラ朝王権との関係と一定の領域支配を権力基盤としていた。その武力の基盤にはある程度の幅が認められるが、部族首長・他王朝の王族などで同族集団の動員が認められる他は、他地域出身者やカシャなどの森林・山岳部族民を含むチャータ・バタと呼ばれる傭兵への依存が想定される。これらの従属支配者層とパーラ朝王権との緊張関係および交渉が、銅板文書に記録された彼らの活動から読み取られる。彼らは自身の領地内に宗教施設を建立し、それらへの王権による村落等の施与を申請しているが、そこには宗教的権威による自己の在地支配強化に加え、宗教的施与の名目で支配領域の一部を囲い込んで王権の干渉から遮断し、合法的に王権の権威を蚕食する意図が認められる。王権が建立した大仏教僧院に従属支配者が施設を建立し、それらへの自己領土内の土地施与を申請することで王権との紐帯を強化しようとする事例もあるなど、両者の関係は複雑なニュアンスを含んでいたが、次第に王権側に権力バランスが傾いていった。すなわち、王権は従属支配者による申請を却下する一方で宗教施設の建立を進め、儀礼奉仕などで自己と密着したブラーフマナ達を村落施与を通して各地に定着させ、また貨幣単位に基づく生産査定を導入により在地支配の強化を図ることで、従属支配者層に対する優位を確立していった。しかし、このことは両者間の緊張を増大させることとなり、ブラーフマナらへの従属支配者層の反発やパーラ朝による支配強化に対する農村居住者の反発、農民化した漁民として北ベンガル辺境に入植したカイヴァルタの成長と首長層の登場などの様々な事象とも交錯し、11世紀後半にカイヴァルタ反乱として爆発することとなった。北ベンガルの従属支配者連合によるパーラ朝王権への反乱として勃発したカイヴァルタ反乱は、ラーマパーラ王による西ベンガルおよびビハール東部の従属支配者層の動員により、当初は従属支配者層で構成された軍隊どうしによる衝突として展開したが、末期にはカイヴァルタ首長を支持するより広範な社会集団の参加と武力行使も見られた。反乱は鎮圧されたが、パーラ朝王権の従属支配者層への依存が強まり、その中から台頭したセーナ朝によりパーラ朝は12世紀後半に北ベンガルより放逐されることとなった。

12世紀半ばに台頭し、一時的とはいえベンガルのほぼ全域を統合したセーナ朝の下では、パーラ朝により始められた貨幣単位に基づく生産査定 of 包括的な導入などにより国家による農村社会の支配が格段に強化された。その下では、独立を達成した一部の例外を除き、従属支配者は王権の強固な支配下に置かれて階層化された土地関係における上位権益保持者として分散した地所を宛がわれるようになり、その自律的活動は見られなくなった。

以上のような従属支配者層と王権との権力関係の推移は、農村社会の階層化の進展とそれに伴う農業発展形態の変化、農村経済の商業化、ブラーフマナらのアイデンティティー形成・ネットワーク構築および権威確立などの様々な現象と繋がっていた。それらを関連させて中世初期ベンガル社会の歴史変化を描いた単著として、Ryosuke Furui, *Land and Society in Early South Asia: Eastern India 400–1250 AD* (Routledge, 2019 forthcoming) が刊行される予定であり、中世初期ベンガル、さらには南アジアの歴史変化を捉える新たな枠組を国際的な研究の場に提示することが期待される。

(2) 近世東北インドにおける部族国家形成との比較可能性の模索

インド東北部アッサム州のジャヤンティア丘陵およびカチャール丘陵にて現地調査を行い、それらの地域で近世に見られた国家形成の過程とそれ以前にベンガル地域が経験した社会変化の過程との比較可能性および丘陵部の部族社会と平野部の定住農耕社会との交流の在り方について考察した。ジャヤンティア丘陵では15世紀に部族首長から王権への転換が見られたが、ここで鍵となったのは、外部からの神官招へいによる、ヒンドゥー的女神信仰の導入であった。この過程においては、マハーラーシュトラからデーシュパンデー姓の識字層を招いて神官とし、また巨石で示された部族の墓域と関わる丘陵上に寺院を築くなど、ヒンドゥー化以前の文化との複雑な交錯が認められた。一方で、現在博物館などに所蔵される武器類からは、中世初期にカシャと総称され、近代にカーシーと称された丘陵部族民による武力の保持と、平地の王権に対する傭兵としての軍事奉仕の可能性が示唆された。カチャール丘陵では、15世紀に現在のナ

ガランド州ディマプルに興り、その後マイボン、さらには平野部のカースプルへと中心を移しつつ、19世紀初頭に滅亡するまで国家形成の過程を経たディマサ王国に関わる遺跡の調査を行い、丘陵部の部族首長が、ブラフマニズム受容を通して王権として確立し、それに伴い他の部族構成員と差別化された有力者がクシャトリヤを自称する土地保有武人層を形成していく過程を跡付けた。そこでは、王権の象徴としての剣の獲得にまつわる伝承の形成とそのレガリアとしての設定、王権を守護する神格としての女神信仰の受容と寺院の建立などの王権正統化の機構が、ベンガル側から移住してきたブラーフマナらの媒介により確立されていった。

以上のような近世東北インドの政治権力およびその支持基盤に関わる調査・研究は直接中世初期ベンガルと関わるものではないが、現代に近く未だ史料・遺物面でアクセスが可能な事例として、より古い時代に同様の変化があった可能性および相異を考察する上での比較対象を提供し、また中世初期諸史料の解釈を深めるものであった。

(3) 碑文の校訂・再校訂による史料の拡充

以上のような従属支配層と彼らの武力に関わる研究を進めつつ、それに関わる諸碑文の校訂・再校訂を進め、史料の拡充に努めた。それらのうち、パーラ朝最末期の王、ゴーパーラ4世とマダナパーラに関わる2点の銅板文書は、パーラ朝が1165年に至るまで北ベンガルに支配領域を確保していたことを証明するとともに、幼少時に即位したゴーパーラ4世の摂政となった叔父のマダナパーラがその後王位を篡奪し、北ベンガルの別地域に勢力を維持したゴーパーラ4世、北ベンガル南部に支配を拡大しつつあったセーナ朝のヴィジャヤセーナと三つ巴の抗争を繰り返していたこと、その中で残された領域の支配を強化すべく行政機構の再編を図っていたことを示唆するものであった。もう1点のパーラ朝銅板文書である10世紀前半に属するラージュヤパーラの銅板文書は、現存する同王唯一の文書の再校訂であるが、同年中に文書を修正した形跡と、それを再確認した文言が末尾にあるなど、文書行政上重要な文書であった。6世紀初頭に属するヴァイニヤグプタの銅板文書は、100年近く前に発行されたナータチャンドラの銅板文書をそのまま写して内包し、それによりなされたアージーヴィカ教徒への土地施与を認めたもので、歴史をたどることの難しいこの教団の足跡を明らかにするとともに、5世紀から6世紀にグプタ朝の宗主権を認めつつ東ベンガルを支配した従属支配者権力の在り方と、その下で進行した同地の農業開発に関する情報を提供する貴重な史料であった。

以上のような碑文の校訂・再校訂および解釈の提示は、国際的研究者コミュニティに対して新たな、より信頼できる一次史料を提供する意義がある。加えて、8世紀のチッタゴン地域と関わるバングラデシュ国立博物館所蔵の金属壺銘についても、その内容解釈を提示し、カシヤの居住地であったと思われるカシヤマカと呼ばれる地域での、王権を中心とする国家形成と農業開発、仏教サンガによる土地集積について論じた。その内容は‘Bangladesh National Museum Metal Vase Inscription of the Time of Devātideva and its Implications for the Early History of Harikela’, *Puravritta*, 2, 2019 として刊行予定である。こちらも、既発表碑文に対してより適切な解釈を提示し、それに基づく研究の進展に資するものである。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計8件)

- ① [Furui, Ryosuke](#), Social Life: Issues of Varṇa-Jāti System, Abdul Momin Chowdhury and Ranabir Chakravarti (eds), *History of Bangladesh: Early Bengal in Regional Perspectives (up to c. 1200 CE)*, Vol.2 *Society Economy Culture*, 査読なし, Dhaka: Asiatic Society of Bangladesh, 2018, pp.43-70, URL: https://www.academia.edu/37740094/Social_Life_Issues_of_Var%E1%B9%87a-J%C4%81ti_System.
- ② [Furui, Ryosuke](#), Agrarian Society and Social Groups in Early Medieval Bengal from a Study of Inscriptions, B. D. Chattopadhyaya, Suchandra Ghosh and Bishnupriya Basak (eds), *Inscriptions and Agrarian Issues in Indian History: Essays in Memory of D. C. Sircar*, 査読なし, Kolkata: The Asiatic Society, 2017, pp.168-188, URL: https://www.academia.edu/35689415/Agrarian_Society_and_Social_Groups_in_Early_Medieval_Bengal_from_A_Study_of_Inscriptions.
- ③ [Furui, Ryosuke](#), Subordinate rulers under the Pālas: Their diverse origins and shifting power relation with the king, *The Indian Economic and Social History Review*, 査読有, Vol.54, Issue 3, 2017, pp.339-359, DOI: 10.1177/0019464617710745.
- ④ [Furui, Ryosuke](#), Ajīvikas, Maṇibhadra and Early History of Eastern Bengal: A New Copperplate Inscription of Vainyagupta and its Implications, *Journal of the Royal Asiatic Society*, 査読有, Vol.26, Issue 4, 2016, pp.657-681, DOI: 10.1017/S1356186315000437.
- ⑤ [Furui, Ryosuke](#), Bharat Kala Bhavan Copper Plate Inscription of Rājyapāla, year 2: Re-edition and Reinterpretation, *Puravritta*, 査読有, Vol.1, 2016, pp.41-56, URL: https://www.academia.edu/22297247/Bharat_Kala_Bhavan_Copper_Plate_Inscription_of_R%C4%81jyap%C4%81la_year_2_Re-edition_and_Reinterpretation.

- ⑥ Furui, Ryosuke, Rajibpur Copperplate Inscriptions of Gopāla IV and Madanapāla, *Pratna Samiksha: A Journal of Archaeology, New Series*, 査読有, Vol.6, 2015, pp.39-61, URL: https://www.academia.edu/18488352/Rajibpur_Copper_Plate_Inscriptions_of_Gop%C4%81la_IV_and_Madanap%C4%81la.
- ⑦ Furui, Ryosuke, Characteristics of Kaivarta Rebellion Delineated from the Rāmacarita, *Proceedings of the Indian History Congress*, 査読有, 75th Session, 2015, pp.93-98, URL: https://www.academia.edu/24542224/Characteristics_of_Kaivarta_Rebellion_Delineated_from_the_R%C4%81macarita.
- ⑧ Furui, Ryosuke, Variegated Adaptations: State Formation in Bengal from the Fifth to the Seventh Century, Bhairabi Prasad Sahu and Hermann Kulke (eds), *Interrogating Political Systems: Integrative Processes and States in Pre-modern India*, 査読なし, New Delhi: Manohar, 2015, pp.255-273, URL: https://www.academia.edu/12629448/Variegated_Adaptations_State_Formation_in_Bengal_from_the_Fifth_to_the_Seventh_Century.

〔学会発表〕（計 5 件）

- ① Furui, Ryosuke, Changing Structure of Political Powers in South Asia: Bengal from the Fifth to the Thirteenth Century, Paris EFEO Seminar, Paris, 2017.
- ② Furui, Ryosuke, Reading Copper Plate Inscriptions of Bengal: Forms, Formats and Contents, Seminar held at Bangladesh National Museum, Dhaka, 2017.
- ③ Furui, Ryosuke, Changing Patterns of Agrarian Development in Early Medieval North Bengal: A Delineation from the Inscriptions, An International Conference on 'Early Medieval/Medieval' in Bengal: Transdisciplinary Perspectives in Archaeology with special reference to Bangladesh, held at Jahangirnagar University, Savar, 2017.
- ④ Furui, Ryosuke, Characteristics of *Kaivarta* Rebellion Delineated from the *Rāmacarita*, Indian History Congress 75th Session, held at Jawaharlal Nehru University, New Delhi, 2014.
- ⑤ Furui, Ryosuke, Subordinate Rulers under the Pālas: their Diverse Origins and Shifting Power Relation with the King, Occasional Lecture Programme of Department of Ancient History and Culture, University of Calcutta, Kolkata, 2014.

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。